

**根室市沿岸漁業資源
 利活用研究事業 提言(骨子)**

根室市は、ロシア海域のさけます流し網禁止等、これまで地域を支えてきた基幹産業を取り巻く環境が大きく変化してきています。そうした中、市は今年度から漁業の構造転換を目指し、学識研究者等による調査研究事業を行ってきました。

沿岸漁業資源利活用研究事業の目的は、「根室半島の沿岸域について、より有効な利活用を図るために、底質改善・浚渫などによる新たな漁場の可能性、漁法、魚種、海洋環境、資源管理などあらゆる視点から根本的な構造転換を模索し、加工・流通も含め一体となった地域の底上げを図る」としています。

この事業は研究部門と流通部門でそれぞれ調査を進めて来ており、1月24日に開催された両部門の「合同会議」では、根室市の沿岸漁業における現状と課題、今後の目指すべき姿等をとりまとめた「提言(骨子)」が示され、それに基づく意見交換が行われたそうです。

市によると、合同会議で出された意見を踏まえ提言を成案化した後、その提言に基づく市としての沿岸漁業の目指すべき将来像を示す長期スパンの計画「根室市沿岸資源利活用ビジョン」を、今年度中に策定する予定となっているそうです。

今回示された「提言(骨子)」は、根室市の水産業は全道全国的に見ても豊かな沿岸漁業生産力を有し、かつ大規模水産加工基地としての高い加工技術と規模の集積があると指摘します。

サケマス流し網禁漁等による生産減や沖合い漁業でも資源量や漁場形成不安定さといった不安材料があるが、沿岸漁業はそれらのマイナス要素を吸収する生産規模と可能性を有しています。これらの優位性を生かして、関連産業が多用に連携した力強く複合的な水産関連産業の集積を目指していくべきとしています。

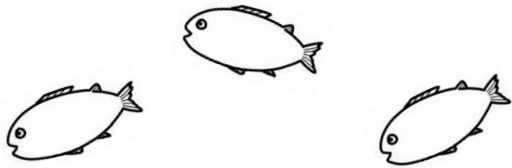
また提言(骨子)では、根室市沿岸漁業の目指すべき全体像について、「水産都市根室」の基幹を市民産業としての生き生きとした生産体制の確立、として掲げています。

(以下、提言骨子から抜粋)

沿岸漁業生産の目指すべき姿

沿岸域の豊かな生産力を戦略的に維持・拡大した持続的で安定した活力ある漁業生産体制の構築。

- ① 根室市の沿岸域の状況をよく理解する。
- ② 資源・海域の特性に適合した効果的な資源増大対策の実施と適正な資源管理を展開する。
- ③ ロシア 200 海里内サケマス流し網禁漁代替としての新規漁業(ホタテ漁業・ベニザケ養殖業)を事業化する。
- ④ 内湾・湖沼等これまで未利用であった海域を有効に活用する。



沿岸漁業資源の高付加価値利用の面で目指すべき姿

関係者の活発な意見交換の下、水揚げされた漁獲物を大切に活用する流通・加工体制の確立。

- ① 漁獲物の高付加価値化に向けた協議体制を確立する。
- ② 鮮度・衛生管理等沿岸漁獲物の高付加価値化に向けた対応基準を確立する。
- ③ 根室市水産物のブランド商品化に向けた消費者ニーズの把握や開発支援体制を構築する。
- ④ 根室の地域ブランド確立のためのイメージ構築・PR 活動を戦略的に展開する。
- ⑤ 水産物の成分に着目した商品開発を行う。

沿岸漁業就業者確保の面で目指すべき姿

共同・協業の理念の下、高齢化による生産力低下を補完し、生き生きとした生産・経営活動を実現する。

- ① 労働力確保・協業経営等の可能性について検討を開始する。
- ② 省力機器開発を促進する。
- ③ 生産技術の伝承について取り組む。

根室市議会 産業経済常任委員会
**根室商工会議所青年部「創陽クラブ」
 と懇談をおこないました**

2017年1月31日、根室市議会産業経済常任委員会(千葉委員長)は、根室商工会議所青年部「創陽クラブ」の方々と懇談をおこない、お互いの活動報告および、特に創陽クラブさんが実施している

「ねむろまるごとバザール」などの取り組みや、若手経済人からみた「まちづくり」について意見交換をしました。

根室市議会では、議会基本条例にもとづき年1回以上の議会報告会を開催していますが、それとあわせて今年度から委員会活動の活性化の一環としてとして市民との積極的な意見交換を実施することになったものです。

今回、根室商工会議所青年部から、役員さん5名が出席されました

説明によると根室商工会議所青年部は平成1年に設立。現在、会員58名が在籍されているそうです

毎月例会を行いながら、例えば今年度では経済人として葬儀のマナーを学んだり、漁業青年部など市内の青年団体との交流会を開催するなど、地域にねざした様々な活動を実施しているそうです

また、これまで「花咲ガニラーメン」の開発・販売や、平成20年から東京や高松市での物産展の開催など各種事業を展開し、そして平成25年から根室港まつりとあわせて「ねむろまるごとバザール」を開催しています。

ねむろまるごとバザールは、年々来場者が増加し、第4回目の昨年は約3,500人も来場者となったそうです

ブース参加店から出店料は得ているものの、運営は全て創陽クラブの手弁当で開催されており、限られた予算とマンパワーの中でも創意工夫しながら、一致団結して取り組んでいる様子について説明されていました。

